

# とうほうだい 授業だより 番外編 【味わい深い文章を紹介します】

私が読書で、この文章に出会ったのは、確か3年ほど前…読み終えて、「なるほど」と思うと同時に、「人に役立つ・支えるとはこういうことなのだ」と、考えさせられました。

## 『親指の働き』

手には5本の指がある。その5本の中でどの指が中心であるか、こう考えてみると、一番中央の、丈の高い、姿の良い中指のように思える。しかし、中指に手の働きの自由自在がまかされているだろうか。

親指の姿は醜い。丈も低い。節も一つ足りない。一番端の方において、おじゃまになっているような姿である。生まれて以来親指にはまだ一度も指輪をはめてもらったこともない。親指はまことに粗末に扱われている。それでも親指を除外することはできない。

ペンを持つにも、お茶を飲むにも、何をするにも四本の指が親指と組み合わさった時にはじめて自由自在が許される。中指がなくても、小指がなくても、文字は書ける。お茶も飲める。他の四本の指は絶対にのけられない指ではない。

5本の中で絶対に除けられないのは親指である。親指を除いて、他の4本の指だけではなかなか茶を飲めない。扇子も開けられない。なんでも稽古すれば相当上手にはなれる。しかし親指を除いて扇子を開くことは百年稽古をしても不可能であろう。

中心を失ってはならない。親を除け者にしてはならない。子供のわがままで、親を粗末にして眼中におかない。親を除けることは出来るであろう。だがその時に自然の守りを失うことになる。天の支えを失うことになる。

親指と4本の指とは、指の腹を合わすことが出来る。4本の指はお互い同士ではどうしても腹を合わせることが出来ない。ここにもまた天の啓示がある。 常岡一郎 作

社会、そして家族の中で、自分は親指になれているだろうか。自問自答していきたい。